カニ

Soldier crab / *Mictyris brevidactylus* / Minami kometsuki-gani / ミナミコメツキガ

ニ

ミナミコメツキガニは体長 1~2cm の小形なカニであり、英名の「ソルジャークラブ」は軍隊のように干潮時に泥付いた海岸側のマングローブを大群で移動する習性からきている。奄美大島の種類は琉球諸島の固有種である。体は冬になると鮮やかな青になり、脚と爪は薄茶色。砂を散策し、餌のプランクトンや有機物を口内で分別し、小さな砂の粒を出す。通常のカニの横歩きとは異なり、ミナミコメツキガニは前向きに歩行する。攻撃された場合、ミナミコメツキガニは栓抜きのように体をねじらせ、砂の中に素早く隠れる。潮が満ちる際も同様の動きをし、潮が引くまで砂に埋まって待つ。また、サギやチドリ、魚、大型のカニなどに捕食されることが多い。

Okinawa fiddler crab / *Uca Austruca perplexa* / Okinawa hakusen shio-maneki / オキナワハクセンシオマネキ

奄美大島の 7 種類のシオマネキの一つで、マングローブの砂地に生息する。体長は 2cm ほどで、色は黒や白、または青などである。オスは左右どちらかの爪が大きく、メスを誘うためや、他のオスと戦うために使われている。餌は砂の中のプランクトンや植物、有機物を口内で分別し食す。非常に警戒心が強く、少しでも危険を察知すると穴などにすぐ避難する。英名の「フィドラークラブ」は大きな爪がフィドラー（バイオリン）に似ているところからきている。また、和名の「ハクセンシオマネキ」は求愛行動が白い扇を仰いでいる様子からつけられている。